

俳句の部

吉原 白天 選

☆☆ 特選 ☆☆

木の言葉聞きつ語りつ木の實際降る

白杵市

健暲

木に寄り添い、木の声を聞き話しかけ、自分の人生を振り返る。実り多き長い人生だっただか問いかける。そして、これからの生き方を思う。「木の實際降る」の季語を上手に活用し、言回しもよく、深みのある俳句である。

☆☆ 入選 ☆☆

大絵馬の跳ねる兎や初明り

大分市

後藤 正人

初詣で今年の千支の兎の大きな絵馬に出合った。その光景を下五の初明りで、目に見え心に伝わるような素晴らしい句にしている。

着ぶくれて事故ゼロ願ひ旗を振る

宇佐市

都留 ナミ子

交通安全を願い道路に立つ。横断する度に旗を振る。着ぶくれての中に、老いの身で頑張っている優しい気持ちの伝わる句である。

冬銀河夢膨らます宇宙港

国東市

吾亦紅

大分空港が宇宙港となった。美しい冬銀河を見つめていると、宇宙への夢、自分の夢が大きくなる。未来へ誘う美しい俳句である。

森 明以子 選

☆☆ 特選 ☆☆

代掻くや生れ継ぎし地のあるかぎり

豊後高田市

立花 眞由美

生きて働くことの大切さを教えられる。先祖代々受けつがれた土地を守り続けることの厳しい時代である今、この心意気に感動する。人としての在り方が表現され、簡潔であるため奥深い。心から声援を送りたい。

☆☆ 入選 ☆☆

早蕨のポキと草の香大地の香

大分市

房前 和加子

手にしたワラビに早春の自然の恵みを感じ、その幸せが大きく広がる。ポキと表して実感が伝わり春の野に遊んでいる気持ちになる。

胎動の孫を真中に初写真

宇佐市

河野 二三華

家族そろつてのお正月写真の中心はおなかの中で元氣よく動いている。和やかな家族の様子が優しくあたたかく描かれている。

戦火水禍コロナ禍くぐり雛飾る

津久見市

湖人

雛まつりは時代を反映していると思う。慰問袋に入れられたり段飾りごと水害で流されたりして。世の中が平和なときこそ雛飾りはできる。

阿部 王一 選

☆☆ 特選 ☆☆

余生また一つ加へし大旦

大分市

佐野 弘一

新年を迎えるにあたり「余生」としての感慨がおおらかに詠われている。何歳からを余生と捉えるかは人それぞれ。退職、子どもの独立、病気の治癒などなど。余生であってもやはり「一年の計は元旦にあり」である。

☆☆ 入選 ☆☆

寒の入り気合いを入れて太極拳

臼杵市

莊田 泰代

健康維持のため、適度に体を動かす習慣としての太極拳。「気合い」という言葉から、その決意がうかがえる。無理せずに楽しんでほしい。

初電話声の元気を褒めらるる

別府市

蛭原 テルヨ

コロナ禍の三年間、移動や面会が思うようにできなかつた。そんな中で電話口でのやりとりが明るい一句となつた。希望の見える初春である。

口ぐせは寝るが極楽ちゃんちゃんこ

大分市

山田 あつみ

人間の三大欲求のひとつである睡眠欲。ぐっすり眠ることで免疫力も高まる。呪文のような言葉を見事にまとめた。季語の選択が抜群。